

(様式)

令和6年3月1日

狭山市教育委員会
教育長 滝嶋 正司 様

狭山市立狭山台小学校
校長 紫竹 理枝子

令和5年度 狭山市立狭山台小学校 学校関係者評価表

※学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※【評価の目安】

- A：よくできている（90％以上）
B：概ねできている（75％以上）
C：あまりできていない（60％以上）
D：できていない（60％未満）

目標 領域	番号	評価項目	評価	自己評価 説明	学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
かしこく	1	児童は、相手に届く声で話したり音読したりしている。	B	・丁寧な文字・下敷きの有用性など具体的な指導を継続的にを行い、できたときには認めていくことを繰り返し、意識を高めている。ねばり強く取り組んでいく。	・先生の賞賛コメント入りのノート掲示は、自主学習へのモチベーションにつながると思う。時間を要する業務だが、今後も続けてほしい取り組みである。
	2	児童は、文字を丁寧に書いている。 (下敷き・消しゴムを上手に使う)	B	・宿題により家庭学習の習慣を確立している。プラス自主学習に取り組むことにより、主体的に学習に取り組む態度を育てている。ノートを掲示し、児童のよい取り組みを全職員で賞賛し広めている。	・児童が主体的に学んでいる姿（6年生）を感じることができた。授業のめあてを明示し自分の言葉でまとめる授業の取り組みに努めている成果の表れと感じる。主体的に学ぶ姿は、低学年から学年に応じた取り組みの積み重ねが大切であると感じる。
	3	児童は、進んで家庭での学習に取り組んでいる。（塾等での学習を含めて〔10×学年〕分）	B	・授業では、毎時間めあてを提示し、学習内容の定着に努めている。まともについても改善されてきている。授業振り返りシートを活用し、授業のまともに意識を高くもち、確実に学力の定着や向上に向けた取組を展開していく。（狭山市学力向上“茶レンジ・プラン”提言5・6に重きを置いた授業への指導改善）	・提言5 学校全体で課題に向けて取り組まれている状況が数値に表れていて素晴らしいと感じた。日頃の先生方のご指導に感謝している。
	4	学校（教員）は、わかりやすい授業に努めている。（めあての明示、児童が自分の言葉でまとめる授業の展開）	A	・学力が着実に伸びている。（埼玉県学力学習状況調査学力の伸び平均3.25）	・主体的な学びの体制を取るには、子供が落ち着いていないとできない。今、何をすべきか子供たちがよく理解している。
	5	学校は、学習内容が子供に身に付くように努めている。	A	・欠席児童に授業をリモート配信し学習の機会を確保することができた。	・授業において、ICTが効果的に活用されている。その陰で、先生方の研修や放課後の仕事量の増加も想像でき、日頃の狭山台小の先生方のご指導に感謝している。
やさしく	6	児童は、自分から目を見て挨拶している。	B		・ICTの活用が学習理解が早い子への手立てとなっている。
	7	児童は、相手を思いやるやさしい言葉づかいをしている。	B	・教師による率先垂範、児童による挨拶運動、あいさつ表彰（2学期159名表彰）を継続して行うことで、挨拶の大切さを実感させている。挨拶への意識が向上してきている。	・学習のつまずきで学校に足が遠のく子もいる。その時その時の学習内容をしっかりと積み上げていくことが大切である。できたら楽しいということを味わわせてほしい。
	8	児童は、集団のために活動している。 (係活動、当番活動、清掃など)	B	・「えがお あいさつ ふわふわ言葉」を合言葉としている。できている児童を学校だより等で紹介することで意識が向上してきている。	・狭山台地区現地災害対策本部員が避難所運営訓練時に作成した「狭山台小学校避難配置図」を使用した図上訓練や校庭に設置している小型備蓄倉庫内を確認するなど、防災を身近なものと感じ・考える授業」の取り組みをお願いしたい。
	9	児童が学校は楽しいと思えている。	A	・「学校が楽しい」と児童・保護者からの肯定的な意見が多く、日頃の学級経営の成果が表れている。できたことを認め、前向きな言葉がけを意識して指導している。ただし、どの学年にも楽しめていない児童もいるので、一人一人に寄り添って対応していく。	・挨拶はなぜ大切なのかということ、繰り返し知らせていくことが必要だと思う。家庭でもきちんと挨拶をすることの必要性を啓発していけると良いと思う。
	10	児童にいじめを許さない心を育てるとともにいじめの早期発見・早期対応に努める。	B		・やさしい言葉づかいは、自分が優しい言葉づかいをさせてどうだったかという体験が一番理解しやすいと思う。まずは先生からやさしい言葉づかいを徹底し、マイナス言葉もプラス言葉に変換する指導も行っていきたいと思う。
	11	内面を高めていく道徳授業の展開。道徳実践力を高める指導。	B	・いじめ等の防止のために日頃から児童の様子に注意を払うとともに、年3回のアンケート調査を実施した。自分のことだけではなく、相手のことも考えられる、自分も相手も大切にできる児童を育てていく。	・集団のために活動することで自己有用感を高めることにより自己肯定感も高まると思う。行動や成果、目標に対して努力した過程を認めて、ひとりひとりの存在を認める言葉がけをしてほしいと思う。
	12	学校は、児童が安心して過ごせる環境を作っている。	B		・先生方が個々の児童の気持ちに寄り添い認めているからこそ「学校が楽しい」という喜びが多いのだと思う。引き続き現指導体制の継続をお願いしたい。

たくましく	13	児童は、何事にもあきらめずに最後まで取り組んでいる。	B	・朝・業間・昼と外遊びをする児童が増えている。引き続き、外遊びの奨励、体育授業・体育朝会の充実、宿題「体力向上カード」の活用、業間マラソンの設定などに取り組んでいき、運動に親しむ環境をつくり、運動の日常化を目指している。	・業間マラソンのBGMが子どもたちの走りを盛り上げるような選曲で、若い先生方の感性に感心した。（運動会の音楽の選曲もとても良かった。） ・業間マラソンでは、はやりの音楽にのり、児童と職員が一体となって校庭を走るさまは、とても素晴らしく良い取り組みだと感じた。 ・早寝早起き朝ごはんの必要性は、毎年家庭での意識づけが課題だと感じる。給食が一番バランスのとれた食事の児童がいると思うので、給食がもう少し充実することを願う。行政側にも意識してもらう必要があると思う。 ・児童の安全を守るために、地域側も道路、公園等の危険個所がないかを意識し把握して積極的に情報共有していく必要を感じている。こども110番の家、安全マップ作成などを通じて、地域と校外生活委員の連携を密にしていけると良いと思う。
	14	児童は、進んで運動に取り組んでいる。	B	・交通指導員さんによる交通安全教室を年2回（1年生は3回）実施した。安全な歩行・自転車の乗り方等、継続して指導している。ヘルメット着用について、保護者向け便り等で家庭にも啓発している。地域からの情報も集め、安全を考えて、対応している。	
	15	児童は、早寝・早起きをし朝ごはんを食べて登校している。	B	・日常・定期・臨時の安全点検を確実に行い、迅速に対応することで、施設設備の安全管理に努めた。	
	16	児童は、交通ルールを守り、安全な歩行・自転車乗車をしている。	A	・職員や学校応援団と共に、生活環境の美化に努め、「花いっぱい」の狭山台「をつくっている。狭山台クリーン大作戦には460名以上の児童・保護者・地域が参加した。学校の周りの落ち葉掃きも行い、地域にも喜ばれた。	
	17	学校は、体力を向上させるための指導や環境づくりに取り組んでいる。	A	・教育活動をひらき、保護者との協働・地域との連携を図ることができた。第2土曜日の学校公開が年2回に減ったが、外部講師を招いた様々な体験学習（稲作、田んぼプール、SDGs（エコキャップ）、狂言を学ぶ会、能楽ワークショップ、昔遊び、ものづくり体験教室、子供安全見守り講座、ベースボールチャレンジ・・・）などの公開、スクリレによる便りの配信、学年便りへの活動の様子がわかる写真掲載など工夫した。PTAを中心に子供たちを巻き込んだバザーを（台小マルシェ467名参加）も開催できた。児童の活動や頑張りの様子をHP・ケーブルテレビ等でも発信している。	
	18	学校は、児童の安全確保に努めている。（安全指導、清掃、修繕等）	B		
公開・連携	19	学校は、学校公開、授業参観・懇談会、学校だよりや学年だよりなどで学校や教育活動の様子がわかるようにしている。	B	・教育活動をひらき、保護者との協働・地域との連携を図ることができた。第2土曜日の学校公開が年2回に減ったが、外部講師を招いた様々な体験学習（稲作、田んぼプール、SDGs（エコキャップ）、狂言を学ぶ会、能楽ワークショップ、昔遊び、ものづくり体験教室、子供安全見守り講座、ベースボールチャレンジ・・・）などの公開、スクリレによる便りの配信、学年便りへの活動の様子がわかる写真掲載など工夫した。PTAを中心に子供たちを巻き込んだバザーを（台小マルシェ467名参加）も開催できた。児童の活動や頑張りの様子をHP・ケーブルテレビ等でも発信している。	・学校だより、スクリレでは写真が多く掲載され、活動の様子が伝わってきた。学校での様々な体験学習は、家庭での体験の差を埋める良い取り組みだと思う。 ・スクリレによる情報提供は、学校の状況把握の観点からとても助かっている。 ・学校だよりが届けられるのは、様子がわかってうれしい。 ・保護者のボランティア活動が活発になり、学校に主体的に関わろうとする保護者・大人が増えていくことは子どもにとってもうれしいことだと思う。校内に彩りがあり、明るく活気を感じる。 ・地域と一体になった学校づくりのため、学校のニーズをどんどん発信してほしいと思う。地域側は、学校のニーズに応えられるような仕組みづくり、人のつながりを作り地域学校協働活動を進めていけるよう、運営協議会委員としても努めていきたいと思う。 ・体験活動は大事だと思う。学力向上につながっていると思う。 ・ボランティアで関わると親自身も成長できる。
	20	学校は、保護者が教員に相談しやすい環境をつくっている。	A	・ボランティアの方々自分たちに関わってくれているということを児童が実感している。様々な地域団体の協力を得て、地域と一体となった学校づくりを推進できた。（学校応援団・SSVC・SUP・おやじの会等）	
	21	学校は、保護者や地域との連携に努めている。	A	・「相談しやすい」と児童・保護者からの肯定的な意見が多く、日頃より丁寧な対応ができています。スクールカウンセラーやさやまっ子相談員にも相談できる体制を取っている。	
	22	学校は、学年・行事等の会計を適切に処理し報告している。	A	・会計は、毎学期末、管理職のチェックと、PTA本部役員に監査を依頼し、確認している。	
教職員	23	全教職員で学校経営方針に基づき組織的に教育活動を進めている。	B	・全教職員で共通理解を図り、組織としてまとまった教育活動ができた。	・先生の働き方改革・負担軽減の推進とはいえ、教員不足や個別に対応の必要がある子ども（家庭）が増えている影響で、先生方の精神的・身体的負担は相変わらず大きいのではないかと感じている。子どもたちとしっかり向き合えるように、まずは先生方の心身共に健康が守られますように。 ・多くのボランティアの方々に協力していただいている状況がよくわかった。学校側が積極的に外部と連携しようと動かなければこの状況は生まれないと思うので、狭山台小の全教職員が連携をしていくことへの意識が高いことが伺える。素晴らしい状況だと感じた。 ・教職員のICTの技術を高めることも大事である。
	24	教職員が組織の一員として自分のよさを発揮して勤務している。	B	・専科制・学年教科交換を実施し、教材研究が深まり、基礎基本の定着を図ることができた。	
	25	教職員が積極的に研修に取り組むとともに、自己研鑽に努めている。	B	・事故・不祥事防止等チェックリストを活用し、高い意識と責任感で業務に取り組んでいる。働き方改革・負担軽減を推進し、やりがいのある職場環境としていく。	